

「活力と笑顔あふれるまちスマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて

# 令和2年度 市長施政方針



今年是我の任期の最終年であり、第二次山陽小野田市総合計画の3年目として「前期基本計画の集大成の年」と位置付けています。重点プロジェクトの取組の幅を広げ、深化させるとともに、スマイルエイジング、災害に備えるための防災・減災対策、官民連携の推進などの取組を進め、集大成となるようまとめあげてまいります。

まちづくりの基本理念である「住みよい暮らしの創造」に向けて、今年、協創の取組をさらに進め、「協創」の成果としての「つながりの融合」による豊かなまちづくりを目指していきたくと考えています。このため、今年度は地域づくりの考え方や、地域のつながる仕組みや体制をつくることを目的として「協創指針」を策定します。

また、「スマイルエイジング」では「健康寿命の延伸」を目標とし、協創の取組によって成果を上げたいと考えています。今年度は「ウォーキング」に焦点を絞り、講座の開催、須恵健康公園のウォーキング用舗装園路の改修などを行います。

続けて、令和2年度の施策の概要について、第二次総合計画の3つの重点プロジェクトに沿ってご説明します。「にぎわい・活力・地域資源活用プロジェクト」では、「第8回現代ガラス展 in 山陽小野田」や学校への出前かるた教室、かるたと他の芸術文化をコラボレートさせたイベント「かるたフォーラム」を開催します。

次に、「子育て世代から選ばれるまち推進プロジェクト」では、流早産等のリスク低減を目的とした妊婦の歯科検診を新たに実施し、子ども医療費助成においては自己負担に対する助成割合を1割から2割に拡充します。教育環境の整備として、国のGIGAスクールネットワーク構想の下、小・中学校に校内LANを整備し、児童生徒に一人一台の端末を年次的に整備します。

「まちの魅力発信向上プロジェクト」では、観光プロモーション広告を新幹線厚狭駅、小倉駅で掲出し、インターネット広告などを活用して

県内および北部九州を中心に情報を発信します。

こうした重点プロジェクトのほか、第二次総合計画の5つの基本目標と計画の実現に向けた施策について、鋭意取り組んでまいります。

この春からは、5G(第5世代移動通信システム)の商用サービスが開始され、Society5.0(未来社会)の実現に向けて情報通信基盤が大きく変化します。本市におきましても、スマート自治体の取組とともに、スマートシティについても研究課題として取り組んでまいります。

一方で、「住みよい暮らしの創造」を実現するためには、情報通信技術だけでは得ることのできない人と人の「つながり」を確かなものとし、住みよい地域づくりに向けて、地域に関わる人や団体の力を結び付け、行政とともに力を発揮していただくことが重要です。よって、今年度は「協創指針」を策定し、これからの山陽小野田市の「始まりのはじまり」の年にしたいと考えています。

また、山口東京理科大学については大学生のいるまちとしてのにぎわいの創出、知的資源の地域への還元、産学官連携推進協議会による新たな取組など、市民のみならず大学のありかちを実感していただけるよう連携を一層強化してまいります。

さらに協創のチャレンジとして、LABV(官民協働開発事業体)を活用した商工センターの再整備、きらら交流館の官民連携事業の導入可能性調査を是非とも成功させるべく、みなさまと一緒に精力的に取り組んでまいります。

今年度におきましても「活力と笑顔あふれるまちスマイルシティ山陽小野田」を実現し、市民のみなさまに住みよさを実感していただけるよう市役所一丸となって取り組んでまいります。みなさまのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

3月市議会定例会の施政方針演説の概要